高岡市埋蔵文化財調査概報第40冊

高岡市埋蔵文化財分布調査概報Ⅸ

―平成９年度　戸出地区東部の遺跡分布調査―

1998年３月

高岡市教育委員会

例　言

1．本書は、富山県高岡市における埋蔵文化財分布調査の概要報告書である。

2．当調査は、平成９年度の国庫補助金の交付を受けて、高岡市教育委員会文化財課が実施した。

3．調査対象地は、戸出地区東部である。

4．現地調査は平成９年４月４日から同年10月22日までの実働21日である。

5．調査関係者は、次のとおりである。

文化財課長；田村晴彦

〔埋蔵文化財係〕

主幹兼係長；石浦正雄

係員；山口辰一

係員；根津明義

係員；荒井　隆

係員；太田浩司

6．本書の執筆は山口が担当した。

凡　例

遺跡、埋蔵文化財包蔵地

▼ 弥生・古墳時代遺物採集地点

▲ 古代遺物採集地点

● 中世遺物採集地点

■ 近世遺物採集地点

調査参加者名簿

現地調査

大田欣和、岡田一広、尾山久美子、垣地慶子、小林央、新谷晴紀子、田辺幸代
寺井久子、寺山知子、土合良子、道谷美奈子、笹田朋江、幡薫、三國世理子
向井美江、山本好美

整理

杉村いく子、高田えみ子、田辺幸代、道谷美奈子、幡薫、三島幸代

目　　次

例　言
目　次

Ⅰ 序　説 …… 1

Ⅱ 遺　跡 …… 5

Ⅲ 遺　物 …… 8

Ⅳ 結　語 …… 9

挿　図　目　次

第1図　調査対象地区分図（1／10万）…… 2
第2図　戸出地区位置図（1／5万）…… 3
第3図　光明寺十山塚位置図（1／5,000）…… 5
第4図　光明寺上山塚実測図（1／100）…… 6
第5図　光明寺土山塚復元図（1／100）…… 7

図　面　目　次

図面1　遺跡地図　全体図（1／2万5千）
図面2　遺跡地図　北西側（1／1万5千）
図面3　遺跡地図　南西側（1／1万5千）
図面4　遺跡地図　北東側（1／1万5千）
図面5　遺跡地図　南東側（1／1万5千）
図面6　遺物実測図　須恵器（1／3）
図面7　遺物実測図　須恵器（1／3）
図面8　遺物実測図　土師器、須恵器、越中瀬戸（1／3）
図面9　遺物実測図　珠洲（1／3）
図面10　遺物実測図　砥石（1／2）

図　版　目　次

図版1　遺跡　1．戸出地区遠景（南西）
　　2．戸出地区遠景（東）
図版2　遺跡　1．戸出地区遠景（東南東）
　　2．戸出地区遠景（南東）
図版3　遺跡　1．光明寺土山塚全景（北）
　　2．光明寺土山塚全景（南東）
図版4　遺跡　1．光明寺土山塚全景（南）
　　2．光明寺土山塚全景（西）
図版5　遺物　1．須恵器
　　2．須恵器
図版6　遺物　1．土師器、須恵器、越中瀬戸
　　2．珠洲

I　序　説

高岡市の位置

高岡市は富山県の北西寄りに位置する。北側は富山湾に臨む。東側は新湊市・大島町・大門町・小杉町と、南側は砺波市・福岡町と接する。また北側は、能登半島の基部東側を占める氷見市である。市域の大部分は庄川と小矢部川の２大水系によって形成された沖積平野である。これらは、庄川による沖積扇状地部分と、庄川と小矢部川による沖積低地部分とに大別される。砺波平野の北半部と射水平野の西端部に当たる。一方北西部には、西山丘陵と、これに続く二上丘陵が走っている。

西山丘陵埋蔵文化財分布調査

小矢部川左岸一帯の西山・二上地域（西山丘陵・二上丘陵とその周辺の平野部）は、多くの遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の所在地として知られていた。昭和50年代に入り開発工事や、開発計画が増大し、西山・二上地域での発掘調査が実施された。当地域に対する各種の開発行為が進むと共に、高岡市は、西山地区での総合開発を検討していた。このような状況の中で、当地域における遺跡の分布状況や内容の把握が、埋蔵文化財の保護上急務となってきた。以上のことから、高岡市教育委員会では、昭和58年度～昭和62年度の５箇年に亘り、国庫補助を得て「西山丘陵遺跡分布調査事業」を実施するに至った。その成果は各年度ごとに『西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報』Ⅰ～Ⅴとして刊行している。

高岡市埋蔵文化財分布調査

高岡市は面積15,000haを計る。この内約6,000haは、前述の通り西山丘陵分布調査として、分布調査が完了している地域である。平野部が主体を占める残りの9,000haの地域でも、数々の遺跡が存在し、数々の開発工事がなされている。このため、西山丘陵地域につづいて、この地域でも国庫補助を得て、分布調査を実施することに至った。

広い地域であるので、３つの地域に大別した。市域の南部に当たる旧戸出町・旧中田町を１つの地域、そして残りの地域は昭和30年代以前に合併した町・村よりなるので、これをＪＲ高岡駅付近を基準に南北に分け旧市南部地域、旧市北部地域と称することにした。それぞれの地域はすべて面積約3,000haを計るものである。そして「旧市南部地域」「旧市北部地域」「戸出・中田地域」の順で調査実施することになった。

旧市南部地域の調査は、平成元年度～平成５年度に実施した。この成果は『高岡市埋蔵文化財分布調査概報』Ⅰ～Ⅴとして報告している。

旧市北部地域の調査は、平成６年度・平成７年度に実施した。この成果は『高岡市埋蔵文化財分布調査概報』Ⅵ・Ⅶとして報告している。

残りの未調査地区は、旧戸出町・旧中田町の「戸出・中田地域」である。これらについては、以下のように３地区に区分した。

１．戸出地区西部；旧戸出町の内、国道156号線より西側

２．戸出地区東部；旧戸出町の内、国道156号線より東側

３．中田地区；旧中田町全域

今年度の分布調査

以上のような経緯で、本年度は、「戸出・中田地域」の内、戸出地区東部に於いて分布調査を実施することに至った。

今回の報告

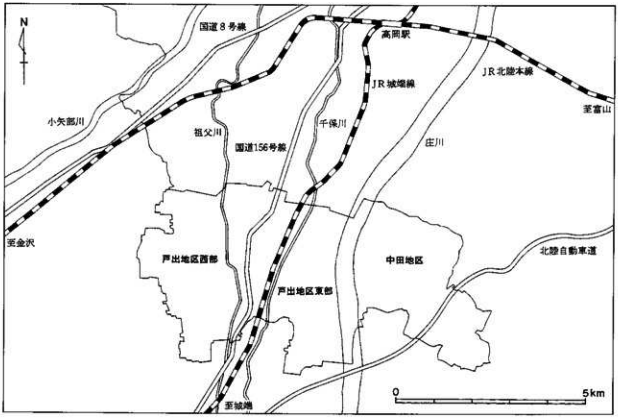
平成８年度に戸出地区西部の分布調査を実施し、今回、平成９年度事業として戸出地区東部の分布調査を実施した。同じく戸出地区であるので、今回の報告書においては、戸出地区西部の埋蔵文化財についても再び述べると共に、前回報告しなかった資料も合わせて掲載することにした。これによって戸出地区全体の把握を目ざした。

戸出地区の概観

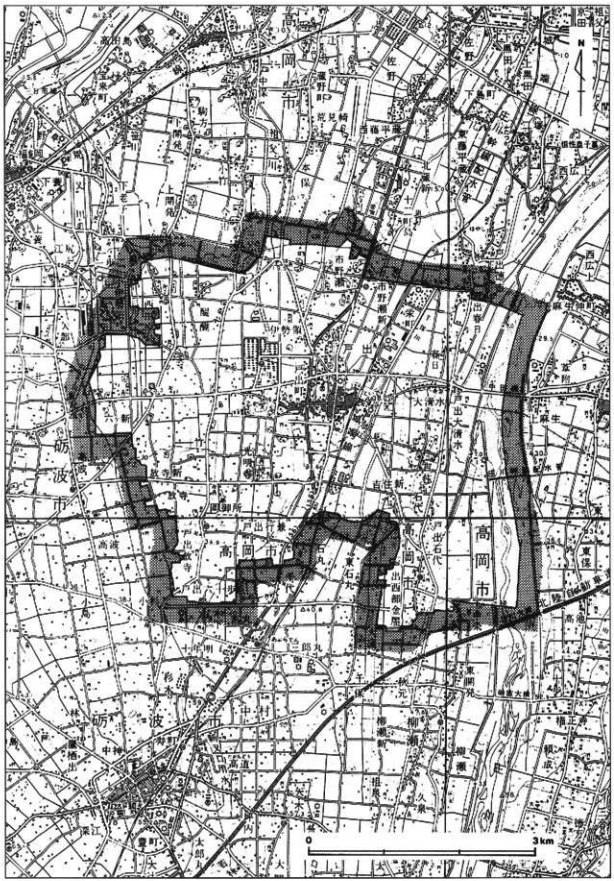
戸出地区は、高岡市街地の南側約８km、砺波平野の北部に位置する。東側は庄川を挟んで高岡市の中田地区、南側一帯は砺波市、北西側は福岡町と接している。また北部は、高岡市の小勢地区、福田地区、佐野地区である。この地域は、南北約4.5km、東西約5.1kmの略長方形を呈している。標高は約20m～40mを計り、北側が低く、南側が高くなっている。

庄川は現在市域の東側に流路が固定している。これは天正13年（1585年）の地震と、江戸時代の加賀藩による工事の結果である。江戸時代前期では、戸出地区中心部の東側を流れ、高岡市街地の木町で小矢部川に合流する千保川筋が本流であった。それ以前は、分流をなして主に北西方向に奔流し、氾濫を繰り返していた。戸出地区も含む砺波平野の大部分は、この庄川の前身の川が形成した扇状地である。

砺波地方の町立ては、山麓の町や村は、中世やそれ以降に始まるとされている。これに対して、平野部のものは近世以降とされている。これは、扇状地を奔流する庄川に影響され、開発が遅れたと解されている。



第１図　調査対象地区分図（１／10万）



第2図　戸出地区位置図（1／5万）

現在、戸出地区と北東側の富山市、西側の小矢部市とを結ぶ道路として、主要地方道富山戸出小矢部線が通っている。富山市方面から、県境の倶利伽羅峠を越え、加賀方面へ向かう最短ルートである。このルートは近世には、北陸道の本街道及至脇街道であったものである。中世の交通路については、古代の駅路や近世の官道に比べて、制度として整備されたものがなかったとされている。しかしこのルートについて、中世の北陸道とする見解もある。何れにしろ戸出地区をとおり、富山市方面や小矢部市方面とを結ぶ交通路があったとしてよかろう。また北側の高岡方面から、南側の砺波地方の城端や井波を結ぶ南北の道も戸出地区を通り、千保川の水運を利用できる位置にもあり、戸出地区は交通の要所であった。

この東西のルート上に灯油田村が中世にはあり、近世に至り、元和３年（1617年）にこの東側の千保川に沿う戸出野が開発され、新村と市が置かれた。灯油田とは戸出の古称であり、新村の方は戸出と呼ばれ、元の灯油田村は古戸出村となった。近世の戸出村は、近隣の村で晒される麻布の集散地でもあり、千保川を利用しての流木の陸揚地でもあり、加賀藩の御蔵所でもあった。

近代の戸出地区は、西砺波郡に属する、戸出町、足戸村、醍醐村と、東砺波郡に属する北般若村からなり、昭和29年にはこれらが合併して、新たな戸出町となった。昭和41年には高岡市と合併して今日に至っている。

Ⅱ　遺　跡

遺物の散布状況

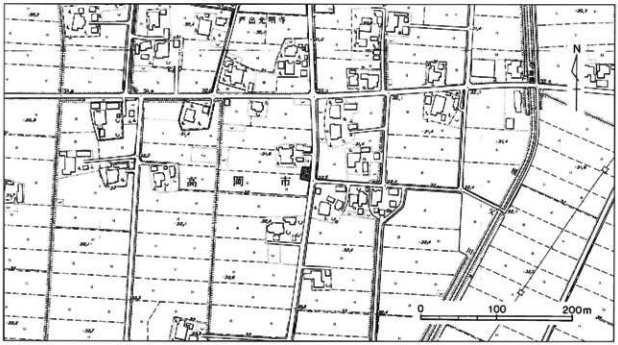
遺物の散布状況は、図面２～４として示した。現地踏査により採集した遺物は古代～近世の土器類がほとんどで、土器類以外では砥石を２点採集した。弥生時代や古墳時代に属する土器類については、数が少なくかつ小破片である。しかし一応この時代のものと判断し、図面に明示した。縄文土器は採集されていない。全体的に戸出東部地区より、戸出地区西部の方が採集された遺物が多い。

遺跡・埋蔵文化財包蔵地

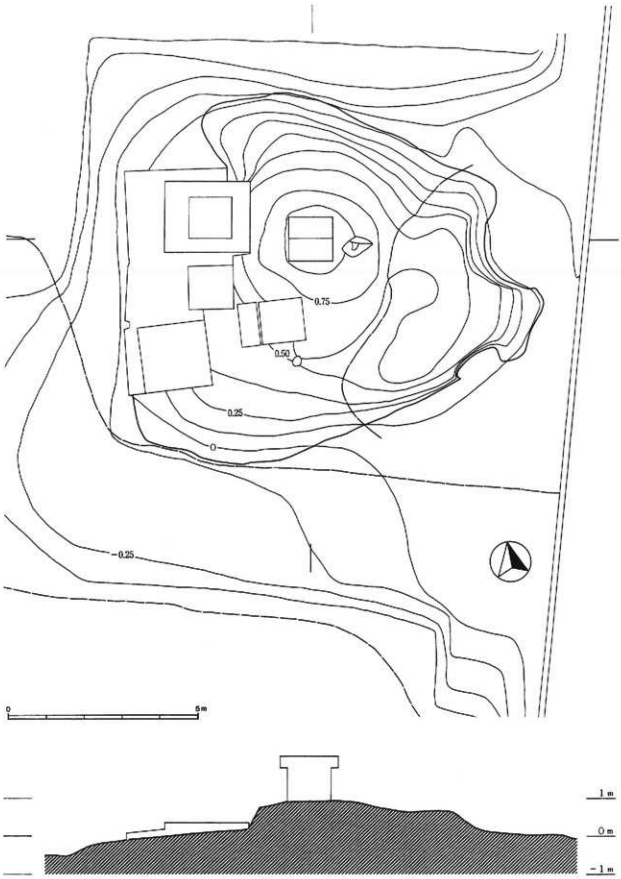
平成８年度と平成９年度の２箇年で戸出地区全部を一通り踏査した。今回の分布調査以前において戸出地区で遺跡・埋蔵文化財包蔵地とされてきた所は２箇所である。平成８年度の戸出地区西部の現地踏査の結果に基づいて、13箇所の遺跡・埋蔵文化財包蔵地を新たに追加した。平成９年度の戸出地区東部を中心とする現地踏査に基づく結果については、新たに遺跡・埋蔵文化財包蔵地と判断される所は見いだすことができなかった。

光明寺土山塚

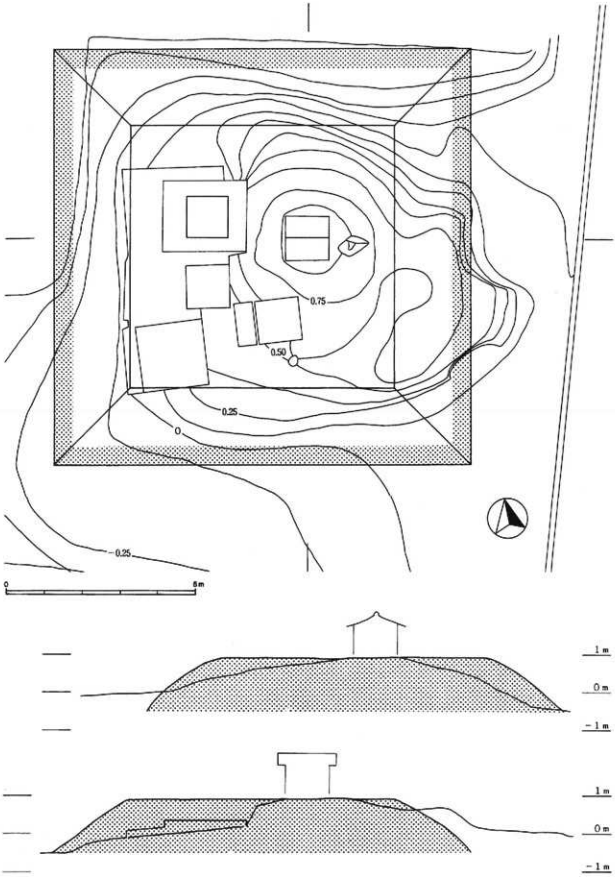
光明寺土山塚の測量調査を実施し、第４・５図に、実測図とこれより推定した復元図を掲載した。この塚については、時期等が不明である。一辺約11mの方形の塚と推定した。高さについては、上部が削平されている可能性もあるので、現状で約１mを計るとしか言えない。



第３図　光明寺土山塚位置図（１／5,000）



第4図　光明寺土山塚実測図（1／100）



第5図　光明寺土山塚復元図（1／100）

Ⅲ　遺　物

遺物については、以前戸出地区から採集されたものと、今回の現地踏査により採集したものとがある。前者については、須恵器がほとんどで一部土師器や珠洲もある。図示したのは須恵器で図面６、７で示したものである。後者については、土師器、須恵器、珠洲、近世陶磁器、砥石が採集されている。図面８～10で示したものである。

須恵器１　図面６で示したもの。

杯Ａ　図面６－1001。高台の付かない杯の底部片、焼成が不良なため、褐色を呈している。

杯Ｂ　図面６－1002～1005。高台付きの杯の底部片。

杯Ｂ蓋　図面６－1006。杯Ｂと組み合うとされている蓋。つまみ部は宝珠形である。

甕口縁部　図面６－1007・1008。甕の口縁部。

瓶胴部　図面６－1009。瓶類の胴部片、カキ目が付いている。

甕胴部　図面６　1010～1013。甕の胴部片。

須恵器２　図面７で示したもの。

瓶胴部　図面７－2001・2002。瓶類の胴部片、カキ目が付いている。

甕胴部　図面７－2003～2014。甕の胴部片。

土師器　図面８で示したもの。

椀　図面８　3001。椀の口縁部。

皿　図面８－3002。皿の口縁部。

須恵器３　図面８で示したもの。

杯　図面８－3003・3004。杯の底部片、3003は高台が付かないもの、口縁部は開くようである。3004は高台付きのもの。

珠洲　図面９で示したもの。

鉢　図面９－3005～3007。3005と3006は擂鉢の口縁部片である。3006の口唇部には波状文が付く。3007は鉢形の底部片である。

甕　図面９　3008～3018。3008と3009は甕の口縁部片である。3010～3018は甕の胴部片である。

越中瀬戸　図面８で示したもの。

皿　図面８－3019～3027。3019と3020は皿の口縁部片である。3021～3027は皿の底部片である。

鉢　図面８－3028～3031。鉢の破片と思われるもの。

砥石　図面10で示したもの。

図面10－3032・3033。小型の砥石である。

Ⅳ　結　語

戸出地区での、周知の埋蔵文化財包蔵地は２箇所であった。これは、1972年発行の『富山県遺跡地図』、及び1993年発行の『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』で示されているものであり、この間、埋蔵文化財包蔵地の新規の発見や確認はなかったことにもなる。平成８年度の分布調査によって、新たに埋蔵文化財包蔵地とした遺跡は13箇所である。平成９年度の分布調査では、新たに遺跡として認定できる地点が存在しなかったことにより、既知の２箇所と平成８年度確認の13箇所を合わせて、当地域では15箇所の埋蔵文化財包蔵地が所在していることになる。

名　　称	種　類	時　代	備　　考
11．油屋寺田遺跡	一般包蔵地	古代～近世？	既知、県遺跡番号202190
12．光明寺土山塚	塚	近世？	既知、県遺跡番号202191
13．戸出伊勢領北遺跡	一般包蔵地	古代～近世	平成８年度確認
14．戸出後生寺遺跡	一般包蔵地	古代～近世	平成８年度確認
15．戸出６丁目北遺跡	一般包蔵地	古代～近世	平成８年度確認
16．戸出６丁目東遺跡	一般包蔵地	古代～近世	平成８年度確認
17．戸出気比神社遺跡	一般包蔵地	古代～近世	平成８年度確認
18．戸出横越北遺跡	一般包蔵地	古代～近世	平成８年度確認
19．戸出横越南遺跡	一般包蔵地	古代～近世	平成８年度確認
20．戸山油屋遺跡	一般包蔵地	古代～近世	平成８年度確認
21．戸出４丁目北遺跡	一般包蔵地	古代～近世	平成８年度確認
22．戸出古戸出遺跡	一般包蔵地	古代～近世	平成８年度確認
23．戸出光明寺西遺跡	一般包蔵地	古代～近世	平成８年度確認
24．戸出光明寺東遺跡	一般包蔵地	古代～近世	平成８年度確認
25．戸出六十歩遺跡	一般包蔵地	古代～近世	平成８年度確認

付表　遺跡一覧表

15箇所の遺跡の内訳は、1箇所が「塚」であり、他の14箇所は一般包蔵地である。時代的には、奈良・平安時代から中世のものが大部分を占めると思われるが、弥生時代や古墳時代に遡る可能性も否定しきれない。戸出地区の遺跡は、発掘調査例がなく、具体的内容は全く不明な地区と言える。

15箇所の遺跡はすべて、戸出地区でも西部地区に所在しており、東部地区では現在のところ遺跡と確認できる所は存在しない。

参考文献

成田忠孝他　1972　『戸出町史』（高岡戸出町史編纂委員会）　高岡戸出町史刊行委員会

坂井誠一他　1974　『角川日本地名大辞典16 富山県』　角川書店

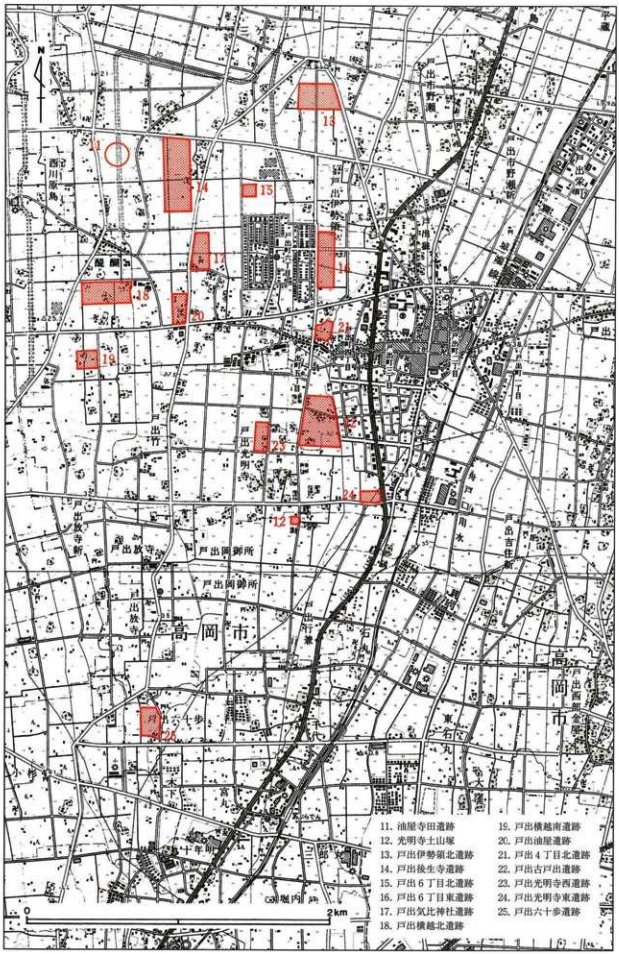
古岡英明他　1991　『たかおか歴史との出会い』（高岡市市政100年記念誌編集委員会）　高岡市

高瀬重雄他　1994　『日本歴史地名大系第16巻 富山県の地名』　平凡社

富山県教育委員会　1972　『富山県遺跡地図』

富山県教育委員会　1993　『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』

図 面 ・ 図 版



図面一　遺跡地図　全体図（一／二万五千）

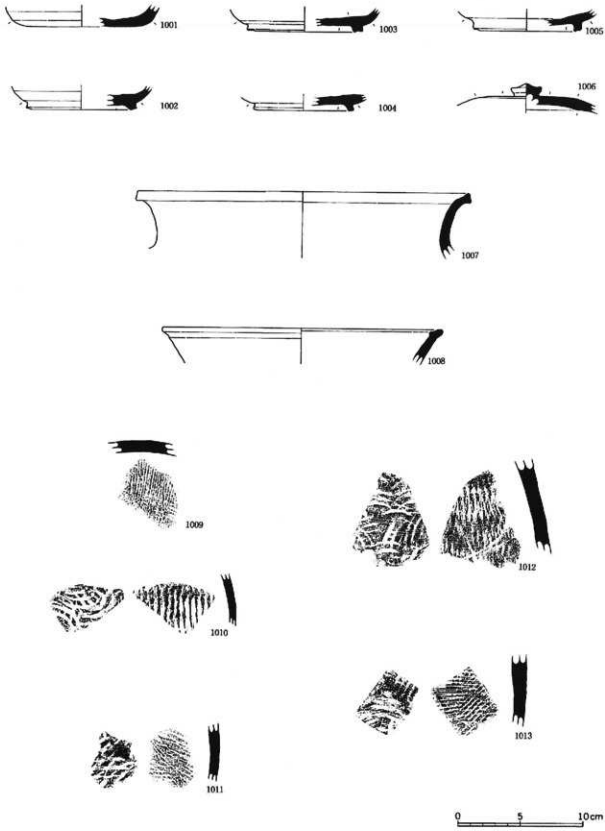
図面二　遺跡地図　北西側（一／一万五千）

図Ⅲ　遺跡地図（1/25,000）

図面四　遺跡地図　北東側（一／一万五千）

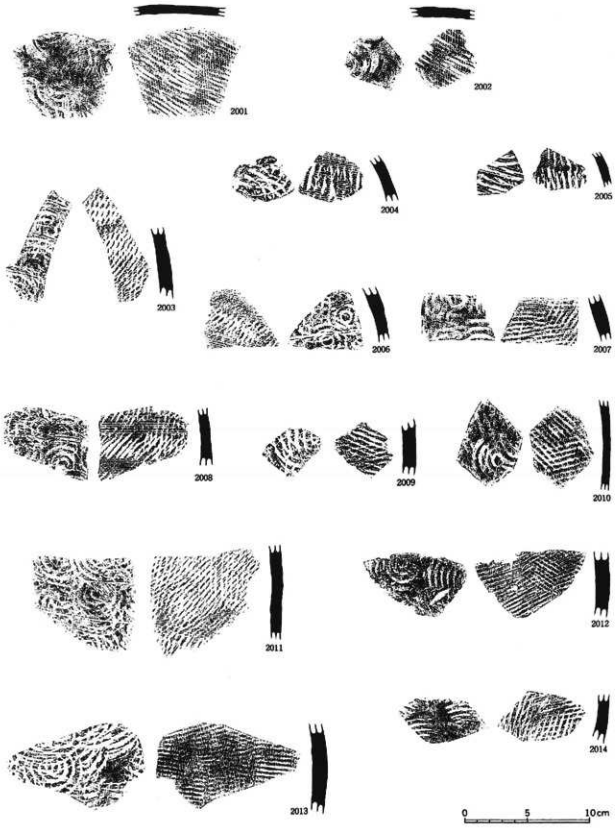
図面五　遺跡地図　南東側（一／一万五千）

図面六　遺物実測図



紡錘器

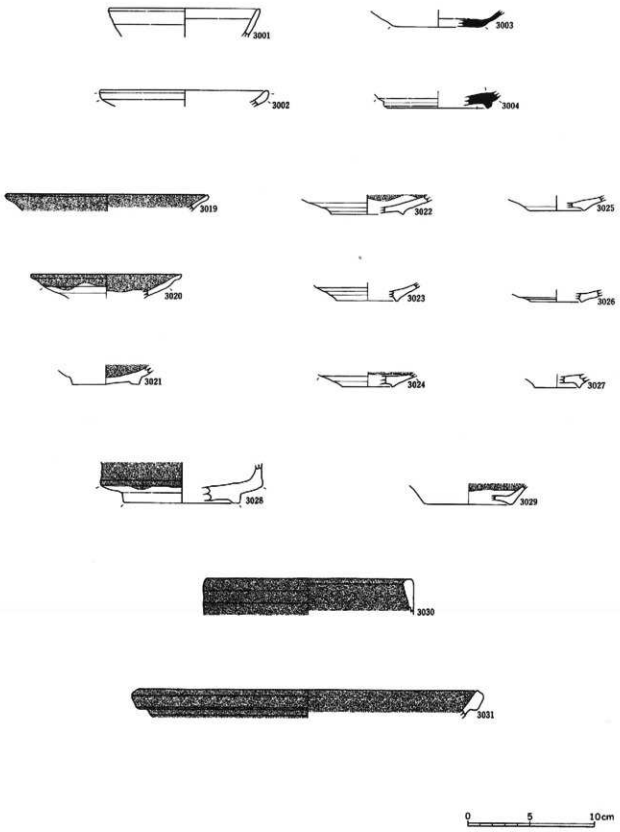
縮尺1／3


2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
0
5
10cm

須恵器

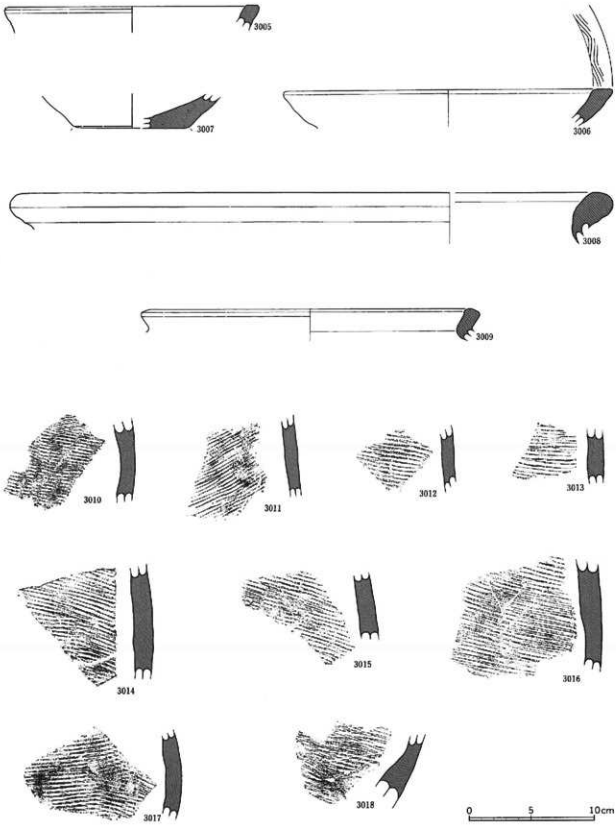
縮尺1／3

図面八　遺物実測図



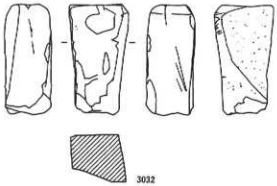
土師器：3001・3002、須恵器：3003・3004、越中瀬戸：3019～3031

縮尺１／３


3005
3007
3006
3008
3009
3010
3011
3012
3013
3014
3015
3016
3017
3018
0
5
10cm

珠洲

縮尺1／3



0　5　10cm

砥石

縮尺1／2

1．戸出地区遠景（南西）

2．戸出地区遠景（東）

1．戸出地区遠景（東南東）

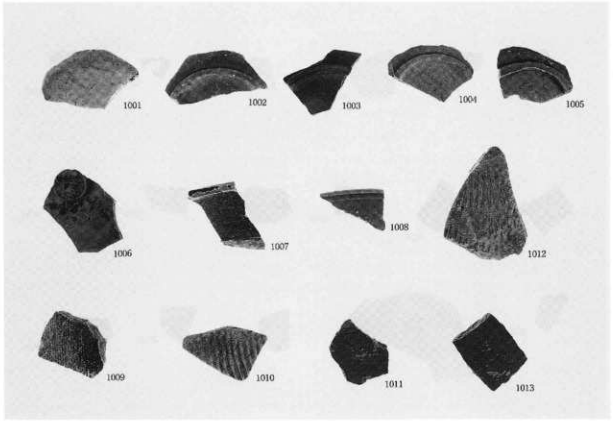
2．戸出地区遠景（南東）

1．光明寺土山塚全景（北）

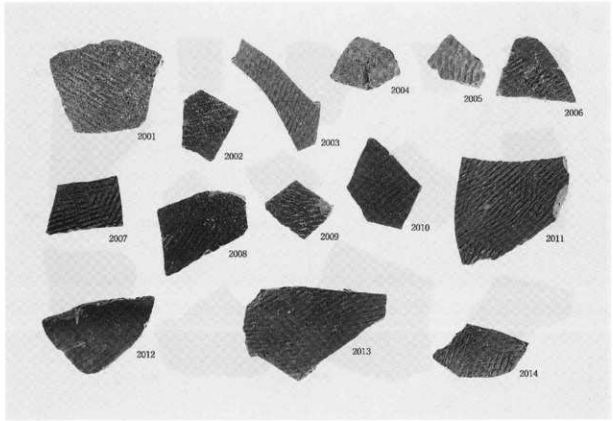
2．光明寺土山塚全景（南東）

1．光明寺上山塚全景（南）

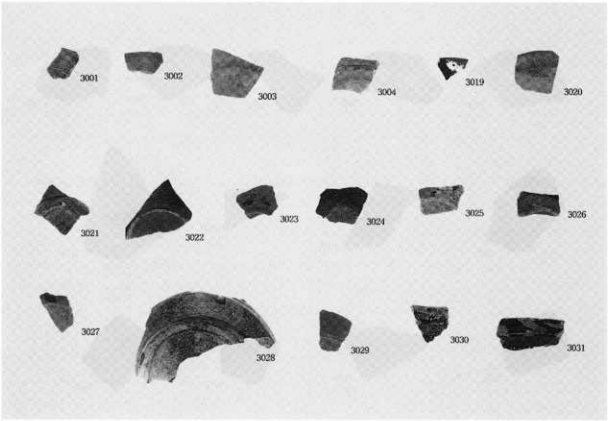
2．光明寺上山塚全景（西）


1001
1002
1003
1004
1005
1006
1007
1008
1012
1009
1010
1011
1013

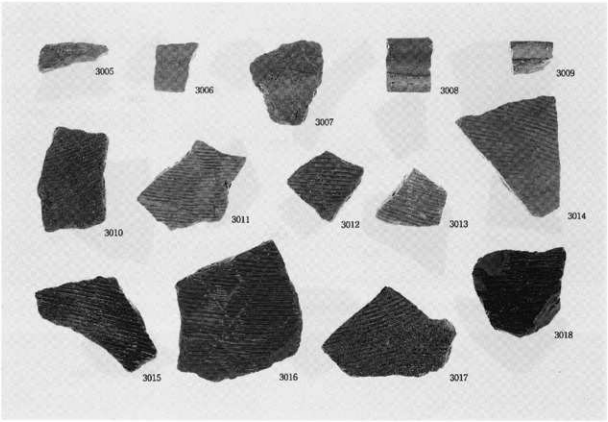
1．須恵器


2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014

2．須恵器



1．土師器、須恵器、越中瀬戸



2．珠洲

高岡市埋蔵文化財調査概報第40冊
高岡市埋蔵文化財分布調査概報Ⅸ

発行者　高岡市教育委員会
富山県高岡市広小路7番50号

1998年3月31日

印刷所　小間印刷株式会社
富山県高岡市利屋町3